

摘 要

前報よりつづく。

15) **チシオヒメノカサ** (新種)。ベニヤマタケに類似するが、全体瘦せ形で胞子は小さい。5 月頃竹林またはアカマツ林内に発生する。大津市茶臼山及び同市石山平津町で採つた。

16) **シロヒガサ** (新種)。全体透明な白色であるが、乾けば雪白色となる (傘の中心部は多少黄味をおびることがある)。形態は次のアキヤマタケとほぼ同様。晩秋季、タケやぶ又は森林内に生ずる。大津市内各地で採る。

17) **アキヤマタケ**。 18) **ヒイロガサ**。 19) **ミイノベニヤマタケ**。

ii アカヤマタケ亜節

20) **アカヤマタケ**。欧州では *Hygrophorus nigrescens* Quél. が *H. conicus* (Fr.) Fr. とは別種またはその変種とみなされているが、筆者の標本では両者の中間の特徴をそなえている。これら両者は恐らく同一種内の両極端型にすぎないであろうと考える。

21) **アケボノタケ**。

iii ワカクサタケ亜節

22) **ワカクサタケ**。 23) **ナナイロヌメリタケ**。 25) **ヌメリアカヌメニタケ**。

25) **ヒメアカヌメリタケ** (新品種)。アカヌメリタケ *H. sciophanus* (Fr.) Fr. (本邦未発見) の小形品種。大津市茶臼山及び三井寺境内の森林で採る。晩秋から冬にかけて発生する。

◇石川光春著：花から実を結ぶまで 改訂版 同和春秋社 昭和 32 年 8 月 30 日
発行 定価 350 円

今でこそ植物に関する啓蒙書や随筆は春夏の花粉の如くチマタに濡れて居るが 20~30 年前にはデンチョウゲの果実のように真に寥々たるものであつた。そのころから「へへのもへじ」、趣味の植物春秋、花、雑草などの著書で私共にビタミン剤やカロリーを補給して下さった著者が近頃“花”の戦後版とも云うべき本書を出された。記述されていることは庶民的であり、著者は自身の観察の記録が軽妙な筆に載つて絵となり、文に綴られている。画は昔ながらの和風ガクブチ入り中にはルオーの画の如くフチからはみ出して居り、真に俳味に濡れている。少年のためのものだが、我々にもトランキライザーの役を果す。装訂は少々野暮。マツの受粉の項に「マツやスギに限らず一般に裸子植物は被子植物に比べると悠長でゆつたりしたものです。多分にせせこましくなかつた昔の姿を備えているものと見てよろしい。ちょうどこの頃のように洋装の人が次第に多くなりましたが、その間にゆつたりした和服の連中が混つていると思えばよろしいでしょう」とある。先生の風格と本書のおもむきも亦斯くの如し。実は私が先生の洋装に接したのは丁度今から 30 年前の 2 月 1 日に只 1 回限りであつた。(小林義雄)